

遠特
2378
252



東西菴 南北作



勝川 春扇画

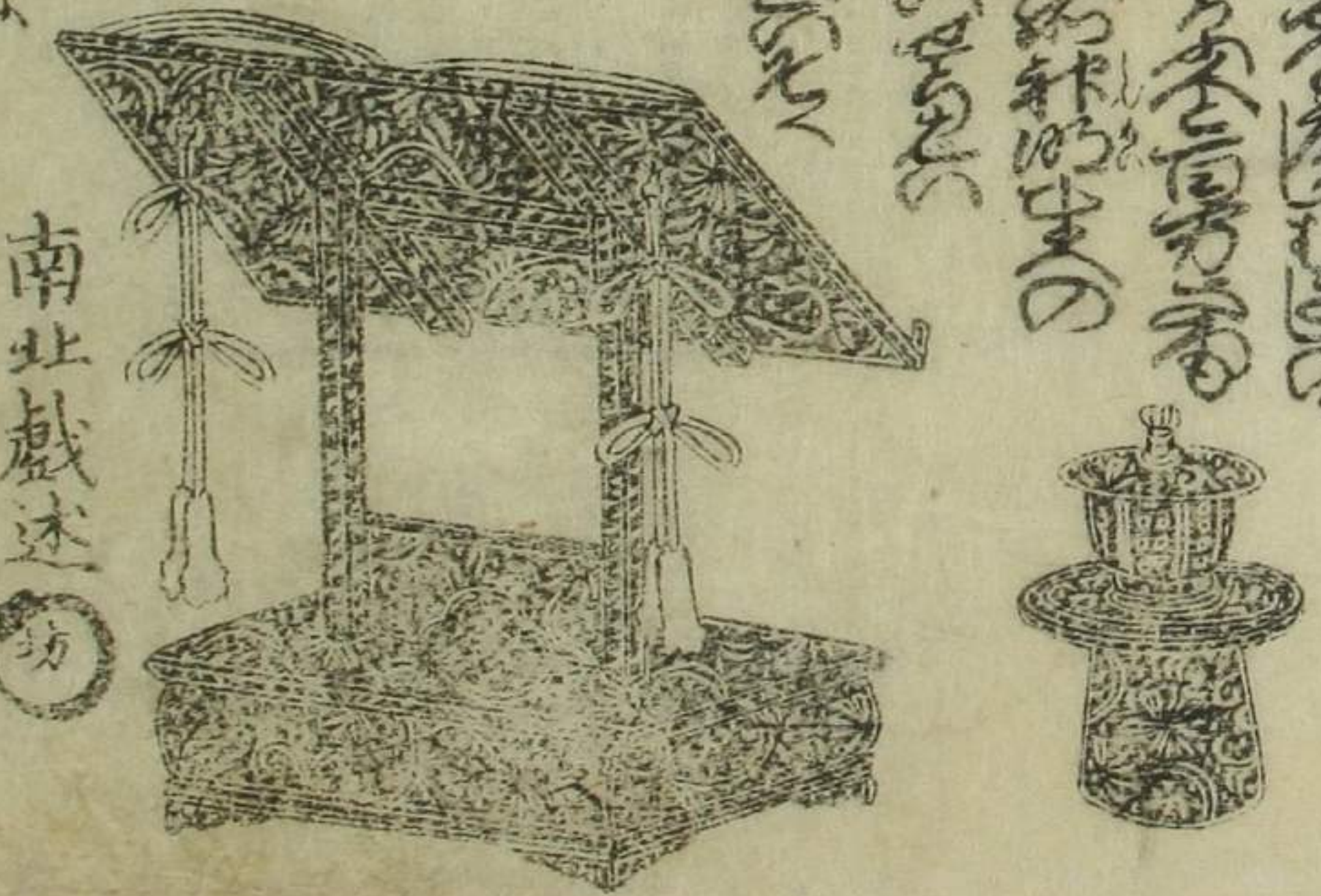
富士の山程
うねり
りまゆみ

美人膚雪城木屋
前後全六冊

文化九壬申
孟春新鑄

甘泉堂梓行

Vertical columns of handwritten text in cursive style, likely a preface or description of the work.



南北戲述



白木や

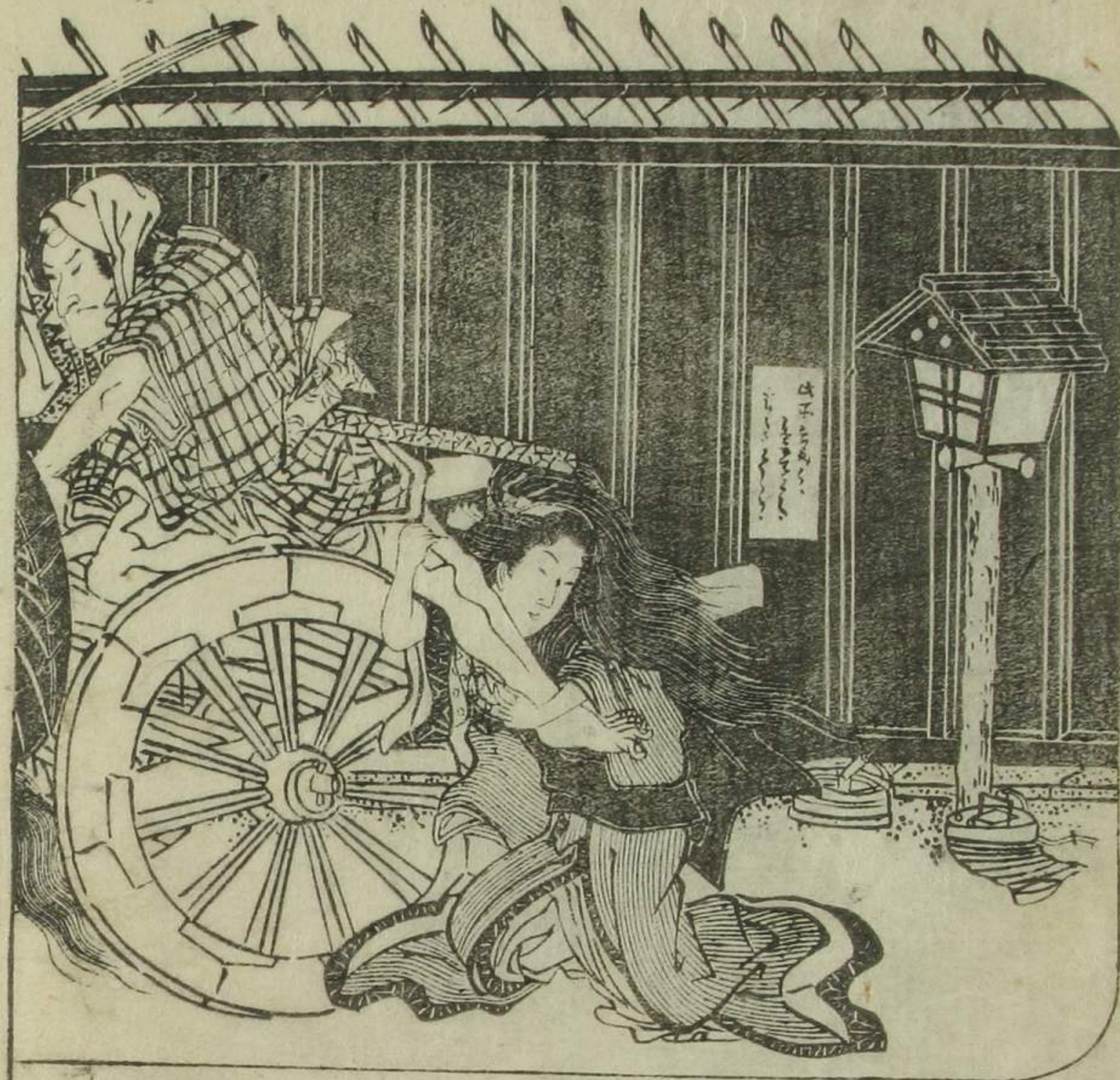


名月や
あはれ
これの
顔ぎ
其角
一軒の
右 山東翁吟

鳥居清経の
園子
繪案
を



髪結三郎
實の草之助の家臣
未廣折之進





城木屋正兵衛

城木屋正兵衛



四部谷枳九郎

千種之助春吉



城木屋正兵衛
 山猫大
 津屋利の

大碓の
 遊君
 弥留
 大夫
 女



つたに

今ハ此の隠金と云ふのは、昔の奥田村の助と云ふ大谷のりういそらむのり
 城本を置き居て、その奥田村の助と云ふ大谷のりういそらむのり
 中へ居て、その奥田村の助と云ふ大谷のりういそらむのり
 今ハ此の隠金と云ふのは、昔の奥田村の助と云ふ大谷のり
 城本を置き居て、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 中へ居て、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 今ハ此の隠金と云ふのは、昔の奥田村の助と云ふ大谷のり
 城本を置き居て、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 中へ居て、その奥田村の助と云ふ大谷のり

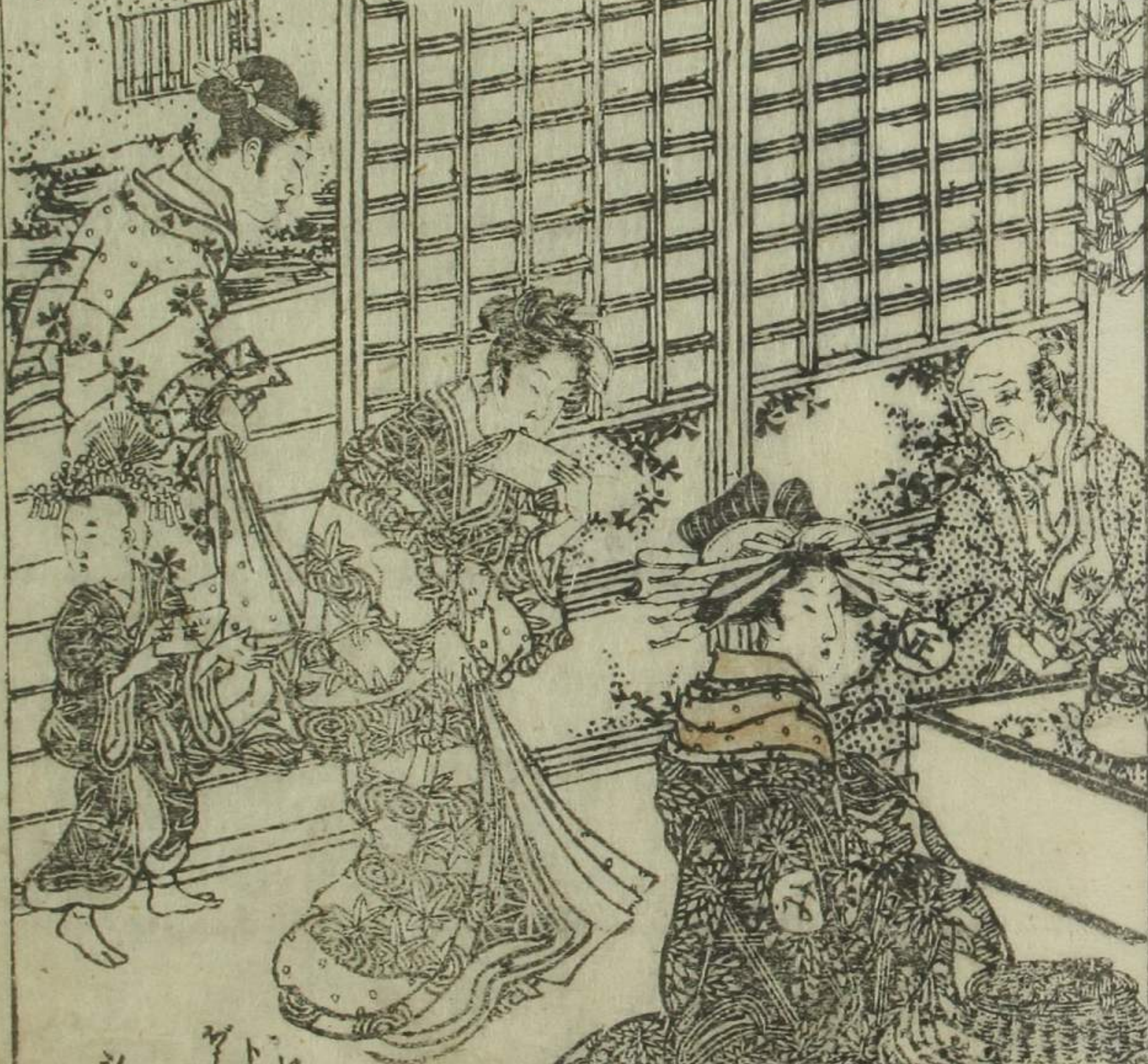
卷之二

此の助の四郎と云ふ一をれを、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 とのひあつて、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 のひあつて、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 此の助の四郎と云ふ一をれを、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 とのひあつて、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 のひあつて、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 此の助の四郎と云ふ一をれを、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 とのひあつて、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 のひあつて、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 此の助の四郎と云ふ一をれを、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 とのひあつて、その奥田村の助と云ふ大谷のり
 のひあつて、その奥田村の助と云ふ大谷のり

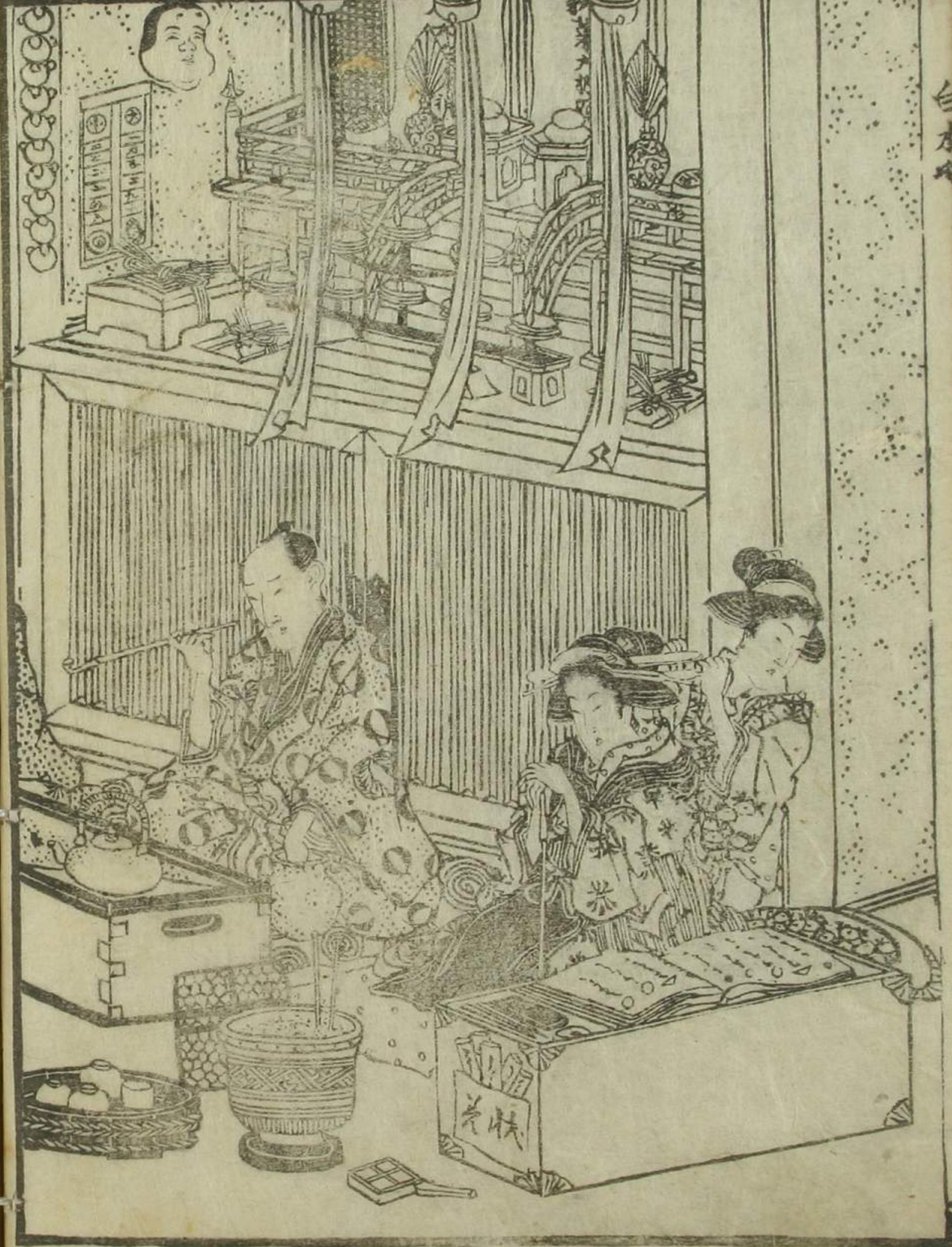
白紙

白紙

The scene is set in a room with a large window. A woman in a patterned kimono stands on the left, holding a fan. Another woman in a similar kimono is seated in the center, looking towards the right. A man in a patterned kimono is seated on the right, looking towards the center. The text is written in vertical columns, starting from the top right and moving left.



This block contains a column of text at the bottom of the left page, continuing the narrative or providing commentary on the scene above.



This block contains a small column of text on the right side of the right page, likely a page number or a title.

七代目...
 ...
 ...
 ...
 ...



...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...





主人のき
それとん
あんの
さくを
うんち
かんく
まこれか
あまの
このあんし
としてさ
それさ

▲トのつゆい
あんの
さくを
うんち
かんく
まこれか
あまの
このあんし
としてさ
それさ

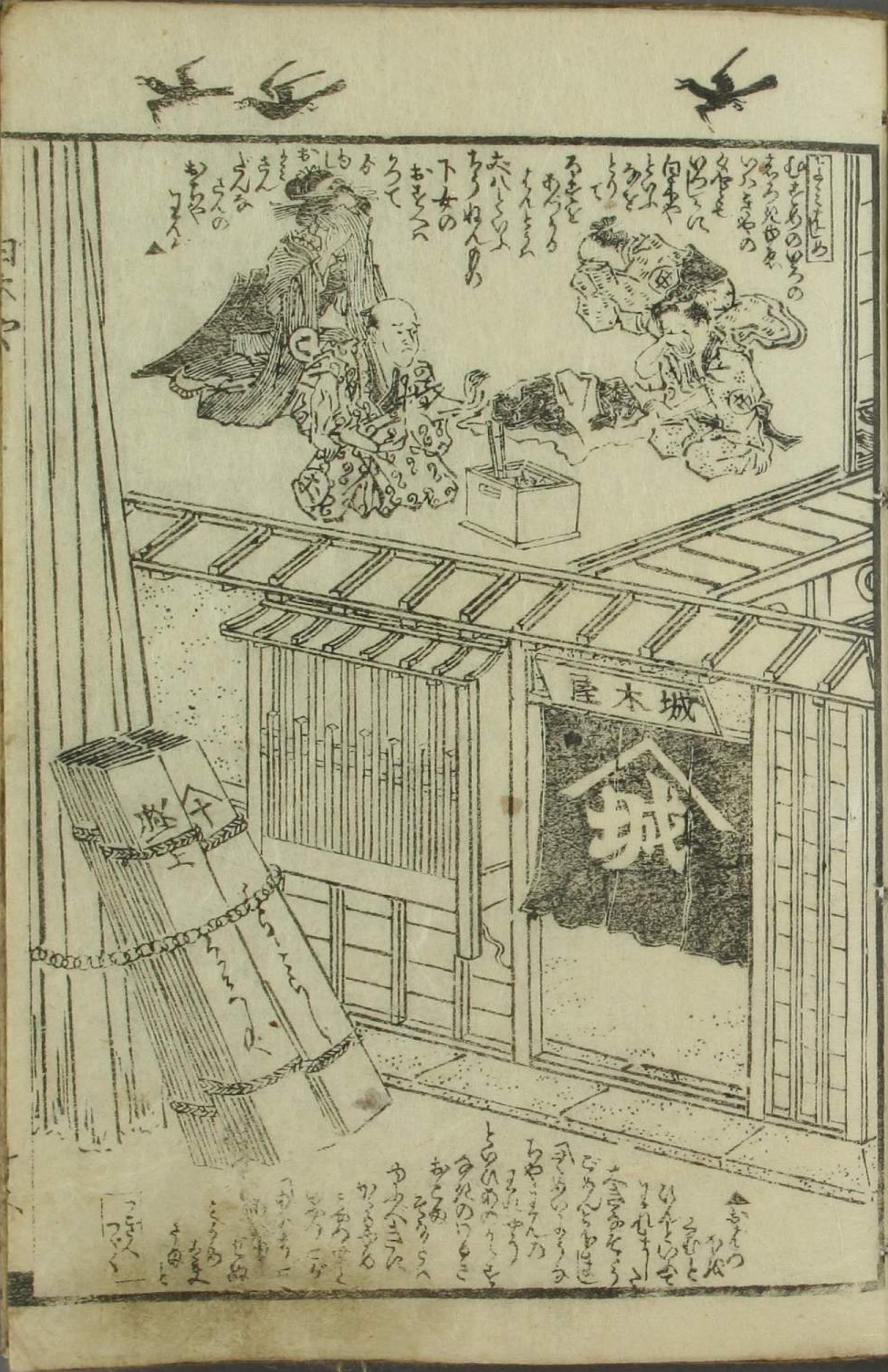
あんの
さくを
うんち
かんく
まこれか
あまの
このあんし
としてさ
それさ



あんの
さくを
うんち
かんく
まこれか
あまの
このあんし
としてさ
それさ

あんの
さくを
うんち
かんく
まこれか
あまの
このあんし
としてさ
それさ

あんの
さくを
うんち
かんく
まこれか
あまの
このあんし
としてさ
それさ



とくさんやちてさぬのまてさめくとあひて
とんを面敷くあしたかみさのひをささる
あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ

あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ
あしたかみさのひをささるあしたかみさ

○京傳志堂おほし
○とくさんやちてさぬのまてさめくとあひて
○あしたかみさのひをささるあしたかみさ
○あしたかみさのひをささるあしたかみさ
○あしたかみさのひをささるあしたかみさ
○あしたかみさのひをささるあしたかみさ
○あしたかみさのひをささるあしたかみさ
○あしたかみさのひをささるあしたかみさ
○あしたかみさのひをささるあしたかみさ
○あしたかみさのひをささるあしたかみさ
○あしたかみさのひをささるあしたかみさ

東西庵南北作



勝川春扇畫

明後之

正月 福園亭



あつし



まゝのついでに...
 とはなかく...
 おろろ...
 こころ...
 おろろ...
 こころ...
 おろろ...



こころ...
 おろろ...
 こころ...
 おろろ...
 こころ...
 おろろ...
 こころ...
 おろろ...



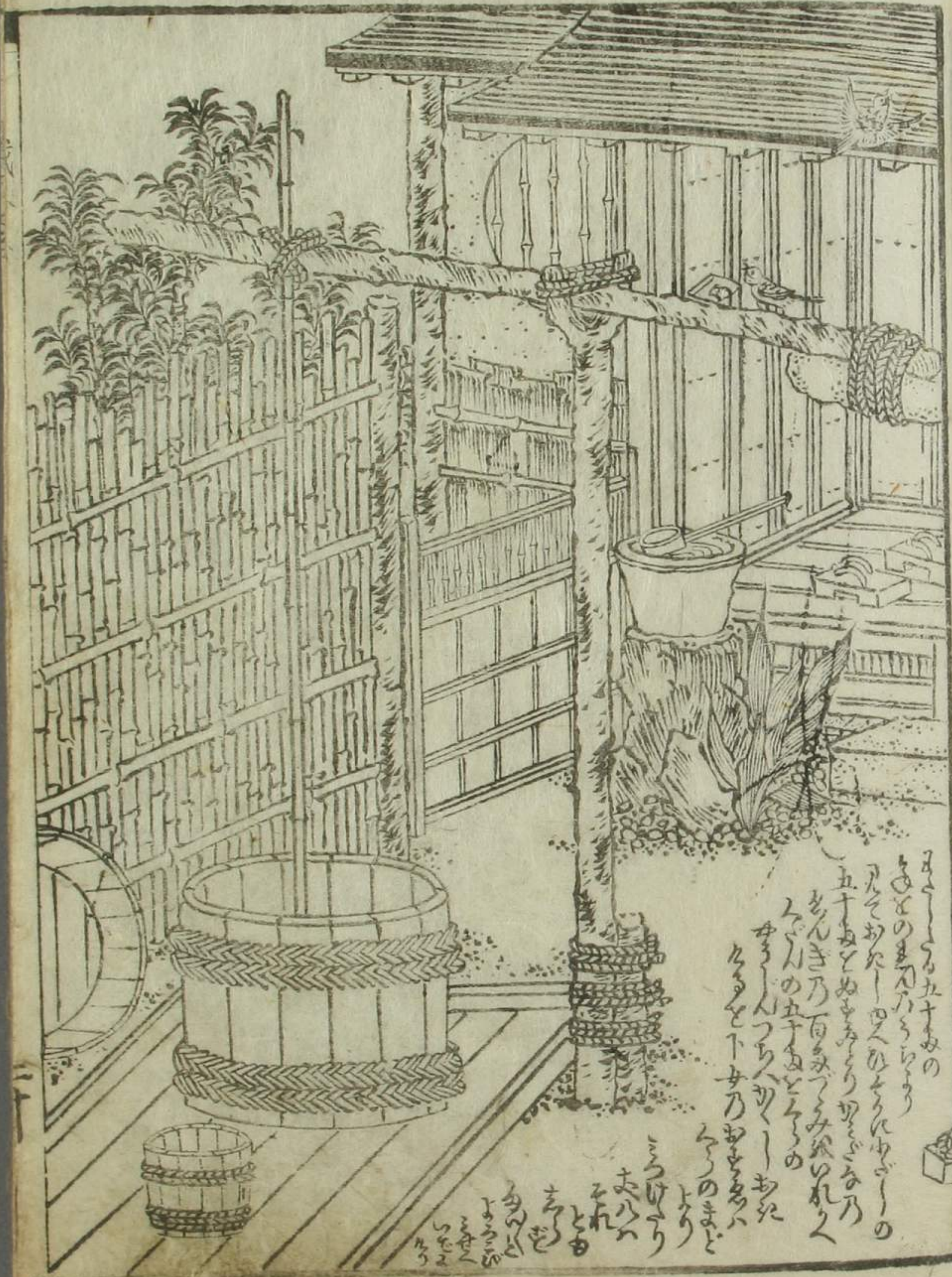
こころ...
 おろろ...
 こころ...
 おろろ...



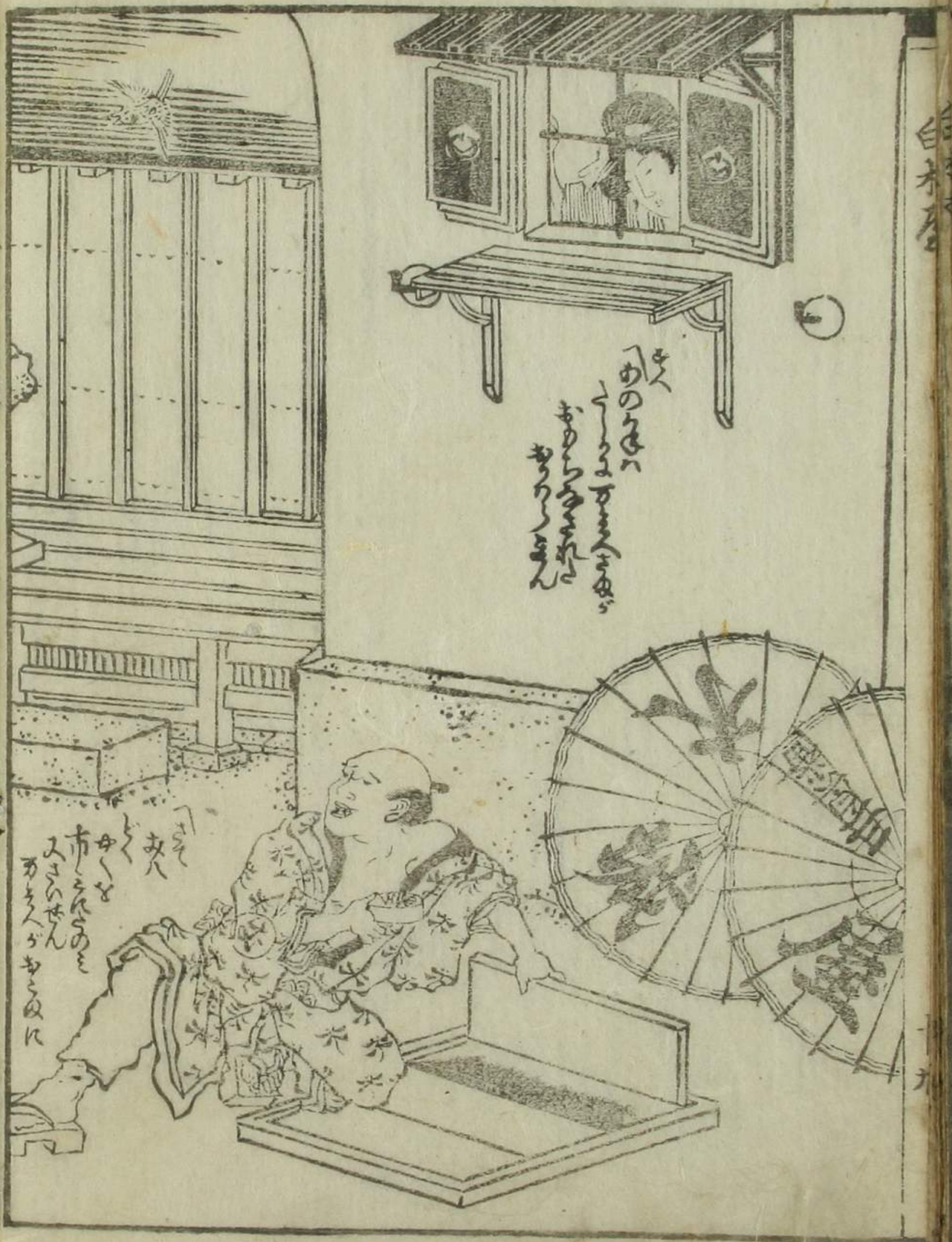
こころ...
 おろろ...
 こころ...
 おろろ...



こころ...
 おろろ...
 こころ...
 おろろ...



母は〜と九十九の
あはれのまはらうりや
アとておた〜アとておた〜の
五つねとぬきあやうりやとぬき
おんき乃〜百あつてみねのれ〜
ふ〜の五つねとぬきの
お〜んつら〜お〜
な〜と〜お〜
〜のま〜
〜のま〜
〜のま〜
〜のま〜
〜のま〜



かゝ
市〜の
〜せん
カ〜の

の〜
〜の〜
〜の〜
〜の〜

白...



あつちよ切ふおとつらね
 ちとぬまぬまのりやせえか
 かんとういりのらうが
 ものありの



あつちよ切ふおとつらね
 ちとぬまぬまのりやせえか
 かんとういりのらうが
 ものありの

あつちよ切ふおとつらね
 ちとぬまぬまのりやせえか
 かんとういりのらうが
 ものありの



此の村のまぢり
 合巻馬券作
 春香酒
 關棧



此の村のまぢり
 合巻馬券作
 春香酒
 關棧

夕べのまどろもあゆむきりしとせうの
 お入はあままちゆめをせんせいの
 けいりくをいふまゝのこゝろに
 けいりくかゝりていふちかぢ
 せんせいのいふまゝのこゝろに
 このいふまゝのこゝろに
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ



あがりだ
ちかぢ
せんせいの



あがりだ
 ちかぢ
 せんせいの
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ



あがりだ
 ちかぢ
 せんせいの
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ



あがりだ
 ちかぢ
 せんせいの
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ
 おれさあこせんめんよ

千代二六

二六

喜多



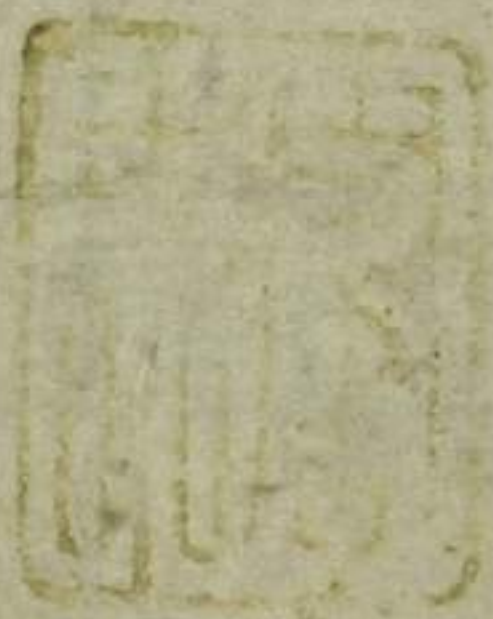
東西菴南北裁作

勝川春扇画





九
百
六



卷

命
卷
一